

午後Ⅰ試験

問 1

問 1 では、情報システム開発プロジェクトの PM が理解しておくべき内部統制の知識、リスクへの対応について出題した。現状のシステム変更プロセスとシステムの安全性に関するリスクを評価する設問 1 や、代替案の評価に関する設問 2(1)の正答率は高かったが、状況からプロジェクトの条件を読み取る設問 2(2)、内部統制の監査の実施基準のポイントを答える設問 4 の正答率は低かった。

設問 2(2)では、オフコン版の制約条件として現状の課題を解答する例が目立った。問われていたことはプロジェクト計画の面から確認すべき制約条件であり、近々サポートも停止されることが制約条件となる点を理解してほしい。新 ERP の満たすべき条件としては、“会計システムとのデータの授受”という解答が多かった。会計システムと同一の新 ERP を採用できるかどうかの判断が問われているのであるから、資産管理業務を遂行できるかどうかの判断のポイントである点を理解してほしい。

設問 4 では、内部統制に係る監査の実施基準について出題した。システム開発プロジェクトの PM として、最近の重要テーマである内部統制に関連して、内部統制の評価を経営者が行うこと、外部委託についての契約の管理が重要であること、テスト結果についての利用部門や IT 部門管理者の承認が必要であることなどの知識は、身に付けておいてほしい。

問 2

問 2 では、開発支援ツールを利用したプロジェクトの開発方針を定め、その方針に基づいたシステム開発に関して出題した。設問 1(1)、(2)については、正答率は高かった。

設問 1(3)では、開発支援ツールの標準機能を極力活用して、効率よく開発を進めることと、保守性を高めるということが開発方針であることを理解してほしい。サービス企画部に要望するときには、開発方針をそのまま伝えるのではなく、サービス企画部の作業に、どのように影響するのかを具体的に伝えることが重要である。要望を行うときには、相手が理解しやすいように、具体的に伝えることを心がけてほしい。

設問 3 では、一般的な Web システムの性能評価での難しい点を解答したものがかかなり見受けられた。F 課長がこれまでに経験した Web システムの開発と比較して、リスクが大きいと判断していることから、今回のケースではどのような点が該当するのかという視点での解答を期待していた。PM が、判断を行うに当たっては、周囲の状況を正しく把握、理解しておくことが重要である。

問 3

問 3 では、システム再構築時のプロジェクト計画の策定について出題した。関連するシステムの開発状況などを踏まえて、品質の高いシステムを納期どおりに開発するための留意事項について、現行機能の保証、効率性を考慮しながら、おおむね正しく理解され、全体として正答率は高かった。

設問 1(2)では、結合テストの開始までに、“現行システムのテストデータを使った確認を行う”という解答が目立った。テストデータの網羅性の確認など、結合テストで確実に現行機能が保証できるようにするための事前確認の作業として、何を行っておけばよいかを考えてもらいたかった。

設問 3(2)では、DB の内容の理解や開発標準の熟知など、Y 社が現行システムを担当していることによる具体的な強みを問うたが、“現行システムを担当している”という解答が目立った。表面的な事象を挙げるだけでなく、状況をより深く分析することが PM として必要である。

問 4

問 4 では、パッケージを活用したシステム開発のプロジェクト計画策定について出題した。設問 1～3 については、正答率は高かった。

設問 4(1)では、採用した予算管理の方法のメリットを問うたが、作業をアクティビティ単位に分解して、週次で予算と実績を対比することの目的を十分に認識していない解答が目立った。背景となっている採算ラインぎりぎり受注した案件であること、開発期間が短く遅延が許されないことから、コストと進捗の両面に関してきめ細かな管理が求められる状況を認識する必要がある。

設問 4(2)では、採用した予算管理の方法からみた現行の実績集計の仕組みの問題点を問うたが、アクティビティと工程の違い、プロジェクトコードの意味を理解できていないと思われる解答が目立った。これらの用語は問題文中で意味が整理されているので、この問題での意味を意識して解答することが大切である。

設問 4(3)では、作業時間実績集計の仕組みを変更すれば予算管理ができることに関して、プロジェクト体制面での特徴を問うたが、(2)の実績集計の仕組みの問題点から仕組み面の特徴を記述した解答が目立った。設問の意図をよく理解して解答することが大切である。